

## 2. 乳がん検診人材育成プロジェクト

株式会社メディヴァ

### 【現地の状況やニーズなどの背景情報】

- ・ イランにおいて、乳がんは女性のがん全体の 24.5% を占め、女性のがんで最も多くなっている。
- ・ 同国のがんの特徴は、他の先進諸国に比べ、罹患率に比べ死亡率が比較的高い傾向にあること、診断時のがんのステージが進行している割合が高いこと（ステージ 2 以上の診断が全体の 8 割）が挙げられる。
- ・ 同国の乳がん検診受診率は、3%-12% と推計されており、かなり低くなっている。
- ・ 受診率の低さの背景は、対策型の乳がん検診は確立されておらず、任意型の検診のみが行われていること、国民の乳がん検診に対する知識不足が挙げられる。
- ・ 同国政府は、乳がん検診へのアクセス改善を主要な課題としてとらえ、対策型の乳がん検診の実施を検討しており、デジタルマンモグラフィの導入を進められているが、乳がん検診に携わる人材育成が急務となっている。

### 【活動内容】

- ・ 来日研修では、日本の医療制度・検診の現状の紹介をはじめ、読影・各種生検の研修、カンファレンスへの参加などを行った。
- ・ 専門家派遣では、乳がん検診の認知度向上を目指した乳がん検診セミナーを行い、約 100 名が参加した。
- ・ 放射線科医・放射線技師向けのワークショップを行い、現地の放射線科医 47 名、放射線技師 36 名が参加した。

### 【期待される成果や波及効果等】

イラン人放射線科医の読影技術及び技師の撮影技術の向上により、イランにおける医療者のキャパシティビルディング・検診普及に寄与することである。

### ＜活動概要＞（2016年9月計画）

#### 9月 来日研修（イラン人医師2名）

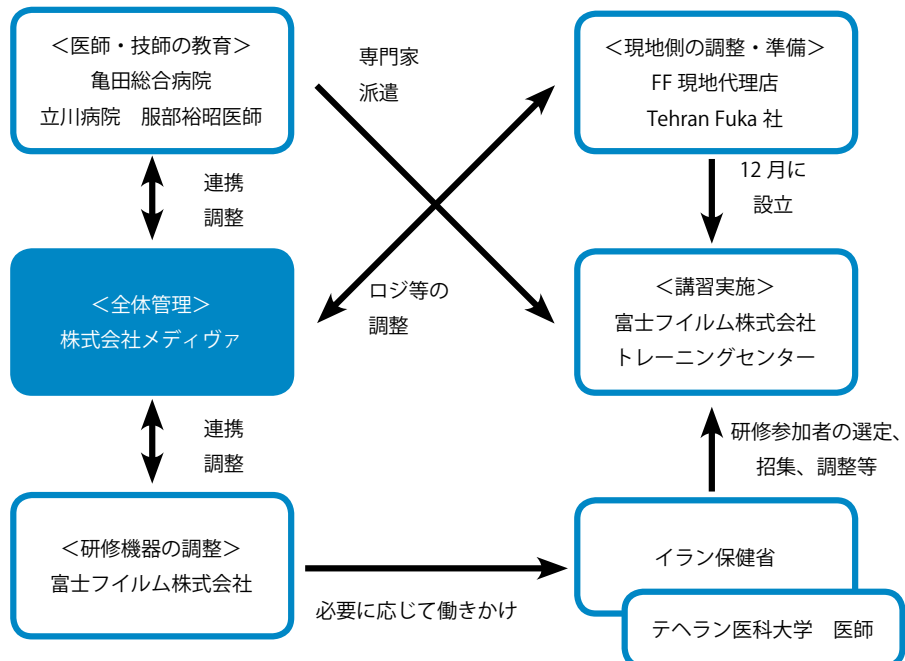
- ・ 日本の医療機関視察・講習
- ・ 教育プログラムの打合せ

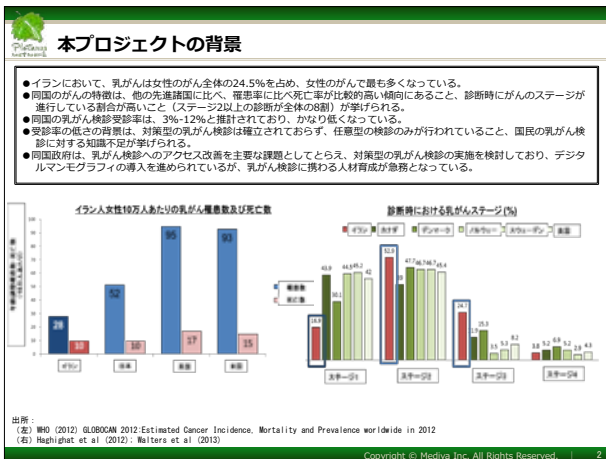
#### 10月 専門家派遣

- ・ 専門家派遣の最終調整

#### 12月 専門家派遣

- ・ 乳がん検診セミナーの開催
- ・ 医師向け・マンモグラフィの読影講習会の開催
- ・ 技師向け・マンモグラフィ撮影講習会





株式会社メディア海外事業部の松永と申します。ここでは私どもが実施しました、「イラン・イスラム共和国における乳がん検診人材育成プロジェクト」についてご報告させていただきます。

どのようなきっかけでイラン・イスラム共和国での活動をするようになったのかと思われる方もいらっしゃると思いますが、2015年にイランの保健省大臣が入院された際に、次官の方に対して乳がん検診導入についての提案を行いました。その際に乳がん検診に対する大きな関心を持っていただきましたので、このようなプロジェクトを進めてまいりました。

本プロジェクトの背景ですが、イランにおいて乳がんは女性のがんの全体の24.5%を占めており、女性のがんで最も多くなっています。同国のがんの特徴として、他の先進諸国と比較して、罹患率に比べて死亡率が比較的高い傾向にあること、また、診断時がんのステージが進行している割合が高いことが挙げられます。ステージ2以上の診断が全体の8割を占めています。乳がん検診の受診率は、3~12%と推計されており、70%以上で検診の効果が上がってくると言われておりますので、かなり低い状況になっています。受診率の低さの背景には、対策型の乳がん検診が確立されていないために任意型の検診のみが行われているという現状がございます。また、国民の乳がん検診に対する知識不足も、現地で研修を行う中で見えてきたこととございます。

同国政府は、乳がん検診へのアクセス改善を主要な課題として捉えております。対策型の乳がん検診の実施も検討されており、実際にデジタルマンモグラフィの導入も進められています。しかし、機器の導入は進められてきている一方で、乳がん検診に携わる人材の不足が大きな課題となっております。

このような背景から、今回のプロジェクトでは、イラン人放射線科医の読影技術および技師の撮影技術の向上により、イランにおける医療者のキャパシティビルディングおよび検診普及に寄与することを目的としました。

内容は、大きく分けて2つあります。まず9月に、来日研修としてイラン人医師2名を招聘しております。そこで

日本医療機関の視察や講習、教育プログラムに関する打ち合わせを行っております。最終の大きなイベントである12月の専門家派遣では、乳がん検診セミナー、マンモグラフィの読影に関する医師向けの講習会および技師向けの講習会を開催しております。

実施体制としては、弊社は全体管理ということで主に調整を担当しております。実施にあたっては、亀田総合病院と、立川病院の服部裕昭先生にご協力をいただきました。また、現地での調整には、富士フィルム社にも代理店を通じて大きな協力をいただきました。同社は、中東において人材育成に非常に力を入れられていて、ドバイで研修を実施されてきました。昨年、我々がちょうど講習会を実施する際に、同社がイランにトレーニングセンターを設立されましたので、このトレーニングセンターにて実施させていただきました。現地側からは、テヘラン医科大学の医師にご協力いただいております。

### イラン人医師・来日研修の概要

- 来日研修では、日本の医療制度・検診の現状の紹介をはじめ、読影・各種生検の研修、カンファレンスへの参加などを行った。
- 本研修により、12月の現地研修のイラン側のカウンターパートを担う2名の先生方との関係を構築できた。
- 来日したイラン人医師2名からは、対策型の検診を導入した先進事例として、日本の経験・知識をぜひイランでも紹介したいという強い要望が寄せられたほか、専門家派遣への期待が強調された。
- 来日中に、専門家派遣における実施内容や役割分担について議論を行った。

スケジュール・実施場所	2016年9月26日(月)~9月30日(金)
対象者	テヘラン医科大学 准教授 Nasrin Ahmadinejad (放射線科医) テヘラン医科大学 准教授 Masoumeh Gity (放射線科医)
主な研修内容	研修実施場所：亀田京橋クリニック 指導者名：町田洋一医師・嶋内亜希子医師 指導内容：読影実習・生検の紹介・カンファレンスの参加(米国)
	研修実施場所：対がん協会(有楽町) 指導者名：岸田浩美様 指導内容：乳がん検診の啓蒙
その他	研修実施場所：富士フィルム 指導者名：メディア松永 役職：海外事業部コンサルタント 指導科目：日本の医療制度・検診の現状
	12月の日本人専門家派遣によるセミナー・講習会の内容についても議論を行った。 議論の結果、1日目は広く乳がん検診の認知度向上を目指すセミナー、2日目・3日目は医師・技師向けのマンモグラフィ講習とすることを双方合意。 開催場所や役割分担についても、議論を実施。

Copyright © Mediva Inc. All Rights Reserved.

来日研修の概要を簡単に説明します。日本の医療制度や検診の現状の紹介をはじめ、読影・各種生検の研修を行っております。亀田病院では、カンファレンスへの参加なども実際に行っていただきました。皆さん英語ができますので、カンファレンスにも医師として参加していただいております。

本研修の大きな成果として、12月の現地での研修がメインイベントまでに、イラン側のカウンターパートを担う2名の先生方との関係が構築できたことは大きかったと思っております。来日した医師2名からは、対策型の検診を導入した先進事例として日本の経験や知識をぜひイランでも紹介していただきたいという強い要望が寄せられまして、12月のセミナーでも紹介してほしいとのことでした。



来日研修の様子

こちらが来日研修の様子となっております。亀田京橋クリニックでの読影研修です。イラン側の先生方からも、イランの乳がん検診の現状について発表していただきまして、相互理解を深めました。また、検診専門の施設にも訪問し、日本の人間ドックなどを視察し、効率の良い検診がどのように行われているのかを理解していただきました。

**専門家派遣**

- 12月の専門家派遣では、1日目に乳がん検診の認知度向上を目指した乳がん検診セミナーを行い、約100名が参加した。
- 2日目・3日目は、放射線科医・放射線技師向けのワークショップを行い、現地の放射線科医47名、放射線技師36名が参加した。

スケジュール・実施場所	2016年12月7日(水)～12月9日(金) ※移動日含まず
派遣専門家	国家公務員共済組合連合会 立川病院 乳癌外科 医長 服部裕昭 放射線技師 飯塚美幸
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●12月7日(月)：乳がん検診セミナー 参加者：医師 64名、技師等 42名 ・イラン・日本両国の乳がん検診の現状・症例の報告を行った。 ・日本側の発表は以下の通り。 ①Breast Cancer Screening in Japan (講義) 内容：日本における乳がん検診の現状 (罹患率など統計データ、日本の乳がん検診の実施スキーム、精度管理のための組織やガイドライン) ②Mammography Guideline in Japan (講義) 内容：日本のマンモグラフィガイドラインについて 日本のガイドラインとBI-RADSの比較、日本のガイドラインの考え方</li> <li>●12月8日(火)・9日(水)：放射線科医・放射線技師向けワークショップ 参加者：放射線科医 47名、放射線技師36名 ・ワークショップは、放射線科医・放射線技師に分かれて実施。1日目は、郊外の参加者、2日目は主にテヘラン市内の参加者を対象とした。 ・放射線科医向けには、マンモグラフィの読影ワークショップを行った。服部先生が作成された英語版の読影教材を用いて、診断フローや読影の実習を行った。 ・放射線技師向けには、実際にマンモグラフィの機械と練習用のベストを使用して、ポジショニングの指導を行った他、研修生のフィルム評価(実習)も実施した。</li> </ul>

そして大きなイベントとなりました専門家派遣ですが、1日目に乳がん検診の認知度向上を目指した乳がん検診セミナーを行いまして、約100名が参加していただきました。2日目、3日目は、放射線科医・放射線技師向けのワークショップを行いまして、2日間トータルで現地の放射線科医47名、放射線技師36名が参加していただきました。

大きな発表の内容としては、イランと日本の両国の乳がん検診の現状や症例の報告でした。統計情報やガイドラインの説明なども行いました。ワークショップでは、医師と技師に分かれまして、医師向けには立川病院の服部先生が開発された教材を用いた読影研修や診断フローの実習を行いました。技師向けには、実際にマンモグラフィの機械と練習用ベストを使用して、ポジショニングの実習などを行っております。



専門家派遣の様子(1日目・セミナー)

こちらが1日目のセミナーの様子です。日本側の一方的な発表ではなく、イラン側からも発表していただきまして、両国の報告と意見交換というスタンスで実施しております。



専門家派遣の様子(2・3日目・医師向け読影研修)

こちらが2日目、3日目の医師向け読影研修の様子です。こちらがiPadを使った教材なのですが、服部先生が今回のために英語化の準備をしてくださいます、数千例もの膨大な症例の入った教材となっております。



専門家派遣の様子(2・3日目・技師向け撮影研修)

こちらが技師向けの研修となっております、マンモグラフィを用いてのポジショニングの練習などを行っております。上段真ん中は、参加者が自分で撮ったフィルムを持ってきて、どのような評価をすれば良いのかということを議論している様子です。技師の方々は、実技研修が少なく、フィルムをどのように評価すれば良いのかをあまり習ったこと

がないようでしたので、今回このようにフィルムに対してフィードバックを行うことは非常に有意義であったと思います。

**事業の成果**

- **医師の乳がん検診の理解・読影技術の向上**  
医師向けの講習会には、2日間で47名の放射線科医が参加した。iPadの読影教材を用いて、短い期間で多くの症例を見ることができ、読影技術の向上に貢献できた。参加者には研修で使用した読影教材を配布したため、自主学習による継続的効果も期待できる。
- **技師の乳がん検診の理解・撮影技術の向上**  
技師向けの講習会には2日間で36名が参加した。マンモグラフィでの実際の撮影指導や、研修生自身が撮影してきたフィルムの評価など非常に実務的な内容となっており、各研修生の持つ問題や課題を明らかにすることができた。
- **現地主導による教育活動の確立**  
富士フイルム社がテヘランに設立したトレーニングセンターは、本講習会でプレオープンとなった。今後も今回のような講習会を参考として現地医療者と日本からの医療者の協力を得て、研修を行っていく予定であり、本プロジェクトは、継続的な教育の基盤となったと言える。

Copyright © Mediva Inc. All Rights Reserved. 10

成果ですが、医師の乳がん検診の理解と読影技術の向上については、47名の医師が参加していただき、服部先生の教材も活用することができ、短い期間ではありましたが多くの症例を見ることができまして、読影技術の向上に貢献できたと思っております。技師の乳がん検診の理解と撮影技術の向上についても、2日間で36名が参加して実務的な内容で研修ができたと思っております。

また、現地主導による教育活動の確立が大きなテーマとなっておりましたが、富士フイルム社がテヘランに設立したトレーニングセンターが本講習会でプレオープンとなりました。今後も今回のような講習会を参考にして引き続き研修を行っていただけるような基盤作りができたと思っております。

**今後の課題：継続的な教育の実施**

今後の主な課題としては、継続的な教育の実施が挙げられる。  
本課題については、主に2つの方針で今後取り組んでいく。

- ① **読影教材の充実**  
今回は、日本のマンモグラフィガイドラインに基づいた読影教材を英語版にしたものを持ち込んだが、BIRADS版の開発を行い、イランの教育に役立てる予定である。今回の講習で得られた現地側からのフィードバックも反映すべく、現在服部裕昭先生は、BIRADS版の教材を作成中である。完成次第、今回イラン側のカウンターパートとなったイラン人放射線科医を通じて、現地医師に配布する予定である。
- ② **トレーニングセンターの活用**  
富士フイルム社のトレーニングセンターを活用し、現地主導による研修の継続を行いたいと考えている。特に、技師の教育では、今回イランを担当する富士フイルム社の技師にも指導の支援にあたってもらった。イランの技師とのコネクションも強化できたため、今後はこの技師を中心として、継続的な研修を企画・実行していく予定である。

Copyright © Mediva Inc. All Rights Reserved. 11

今後の課題としましては、やはり継続的な教育をどのように実施していくかということだと考えております。それ以外の取り組みの方針としては2つのことが挙げられます。1つは、読影教材の充実です。今回は日本のガイドラインで作成されていた読影教材を使用しましたが、現在、服部先生がBIRADS版を作成されています。こちらが完成次第、現地医師に配布していきたいと考えております。

もう1つは、トレーニングセンターの活用ということで、現地主導による研修の継続を行いたいと考えております。今回得たコネクションや現地での学びを含めて、どのような形で継続できるのかを考えていきたいと思っております。

以上です。ありがとうございました。